

令和4年度 河野美術館、今治城及び玉川近代美術館 指定管理者モニタリング結果

施設名	河野美術館、今治城及び玉川近代美術館
所在地	今治市旭町1丁目4番地8、今治市通町3丁目1番地3、今治市玉川町大野甲86-4
指定管理者	<p>名 称 一般財団法人 今治文化振興会</p> <p>代表者 理事長 檜垣 幸人</p> <p>住 所 今治市旭町1丁目4番地8</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課(問合せ先)	<p>総合政策部 交流振興局 文化振興課</p> <p>TEL : 0898-36-1608</p> <p>E-mail : bunka@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	B	施設の目的である「学術文化に関する資料を収集管理して公衆の観覧に供し、あわせて調査研究ならびに保存顕彰につとめ、文化芸術の振興に寄与することを目的」を達成するため、条例、規則、仕様書等に従い、適切な管理運営に努めました。	B	指定管理者は、各施設の設置目的や基本方針のほか、本市の文化行政推進について理解した上で業務を遂行している。今後も関係法令等を遵守しつつ、施設の設置目的や基本方針に沿って、業務を実施していただきたい。
利用状況	A	施設利用者は、コロナウイルス感染者数も減少に伴い、観覧者は増加しました。	B	今治城においては近年のお城ブームも影響し過去最高入館者数を記録した。他施設においては利用数は徐々に回復を見せているものの、コロナ以前と比べると7割程度であった。ウイズコロナ時代に対応した企画等を検討され、文化施設の活用がなされるよう努めていただきたい。
事業収支	A	収入ではコロナウイルス感染者数の減少に伴い、利用料金収入が増加しました。支出では不要不急の支出を抑制するとともに経費の節減を図りましたが、事業収支はマイナスとなりました。公益法人会計基準を遵守し、施設毎の収支も計算し、会計事務所との協議の上経理しました。	A	今治城における利用料金収入が大幅に増加したことにより、控えてきた修繕や什器備品の購入等に充当することができたうえ、市への寄付も行い更に正味財産期末残高も増加している。引き続きサービス低下にならないよう必要な修繕等計画的な取り組みを期待する。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
管理運営体制	B	<p>人員配置の体制は仕様書のとおりであり、勤務ローテーションも関係法令どおり遵守しています。管理運営の根幹を成す収蔵品の管理・保存・調査研究、常設展・企画展の開催などは、専門学芸員を配置し、各種研修会等に積極的に参加しスキルアップに努めています。</p>	B	<p>仕様書に基づく組織体制により適正に管理運営されている。 研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になるものも多かったが、全職員を対象にしたハラスメント研修など、適切に課題整理されていることを評価する。</p>
管理運営業務	B	<p>仕様書で定めた管理業務基準及び関連法令等を遵守する中で、適正かつ効率的な管理業務を遂行するために、管理業務の手法の確立、速やかな執行、管理記録簿の充実等を図りました。</p>	B	<p>各施設ともに、仕様書に従い業務を適正に執行し、適切な管理運営に努めている。 今後も来館者が気持ちよく利用できる管理運営を行うとともに、経費の節減等に繋がる見直しも行いながら業務実施にあたっていただきたい。</p>
利用業務	B	<p>施設利用者は、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い観覧者も増加しました。利用者には、中学生や高校生を含めた幅広い世代を対象に文化芸術に触れ合う機会を提供することができました。今後も、魅力ある常設・企画展示を開催し、宣伝効果の高い媒体を活用した情報発信を行うことによって集客力のアップにつなげます。</p>	B	<p>全国的なお城ブームにより、今治城のメディア露出等は増えているが、他館の宣伝広報業務については目にする事も少なく、十分とは言えない。今治城を含め、取材等を待つのではなく積極的な情報発信に努めていただき、魅力ある常設・企画展示を広報宣伝していただきたい。</p>
その他業務	B	<p>特に重大な事故は発生しておらず、順調に推移していますが、事故や災害等に備え研修等しています。省エネ対策、喫煙対策や個人情報に関する対応はそれぞれ職員の教育を行っており、職員の意識の醸成が図られています。今後ともこの状態を維持・向上できるよう施設の改善を図ると共に職員の教育に取り組んでいきます。</p>	B	<p>消防・防災訓練等も行われているが、より一層の安全確保とサービス向上を意識し業務に取り組んでいただきたい。事故対応・防災マニュアルの整備と全職員への周知が望まれる。 今治城における天守階段のLED照明取替など将来的なコスト削減なども考慮した施設修繕を積極的に行っていただきたい。</p>
修繕業務	A	<p>施設の老朽化が進み、施設本体や機械設備の劣化が目立っていますが、来館者や職員の危険防止・安全確保に関するもの、収蔵文化財の保存管理に関するもの、快適な施設の利用環境の向上に資するものの順に、緊急性の高いものから実施するようにしています。</p>	A	<p>各施設とも老朽化により修繕箇所も増える中、限られた予算の中で節減も行い、必要な修繕を見極め、優先順位を付けて計画的に実施されている。</p>
備品管理業務	B	<p>修繕等で備品の耐用年数の延長を図り、経費節減に努めています。貸与車輛は日常点検・定期点検を実施するとともに、運転日誌を作成して適正な運行管理に努めています。安全運転の励行については、館長が朝礼等で注意喚起を行っています。</p>	B	<p>各施設とも、備品管理が適切に行われ、修繕も行いながら大切に使用している。</p>
行政財産の目的外使用許可手続業務	B	<p>仕様書の定めに従い管理運営収入としました。</p>	B	<p>目的外使用の許可手続き、収益処理ともに適切に事務が行われている。 今後も利用者のニーズ把握に努め、収益の増加や利便性の向上に繋げていただきたい。</p>
自主事業	B	<p>地域の学術文化の発展に寄与するため、館蔵品の名品を広く地域住民に公開すると共に、また地域で活躍している作家達の作品発表の場を提供する為の努力もしており、一定の成果を上げてきています。</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業について中止を余儀なくされた施設もあったが、おおむね計画通りに実施できている。玉川近代美術館による大学や他館とのコラボ企画など今後も新たな取り組みを企画するなどして、利用者や収益の増加に繋げていただきたい。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
地域団体との連携	B	「今治市河野美術館を育てる会」や地域の文化団体と連絡を密にし、地域の文化を振興し、その成果の発表の場として、積極的に連携に努めました。「今治地方観光ボランティアガイドの会」には、総合学習、校外学習の時間や遠足の機会を利用して来城する小中学生を対象に、今治市の歴史・文化に対する知識や理解、愛着を深めてもらうために、ガイドを依頼しています。また、土・日・祝日の来城者への団体旅行者への観光ガイドサービスについては、利用者から好評をいただいております。	B	各館とも、既存の地域団体とは連携を図り、事業協力や支援を受けるなどして、業務に取り組んでいる。 新たな連携先の拡充も積極的に行うことで、利用促進等に繋げていただきたい。 ミュージアムメイトやボランティアガイドの育成なども積極的に行っていただきたい。
利用者アンケート	B	アンケート調査を形式的なものにせず、その要望に対して可能な限り対応しなければならないという基本的な考え方に基づいて、職員の指導、展示環境の改善、施設の改修などを実施しています。接客対応や展示内容の良し悪しといったソフト部門では概ね高評価を得ていますが、ハード面では、施設の構造そのものや老朽化した設備に対する不満も見受けられます。これらの根本的解決方法は施設の改修であると考えており、市当局におかれては、出来る限り早い段階で具体的な整備計画を立案されるよう希望します。	B	各館ともアンケート調査を実施し、利用者状況やニーズの把握に努めている。改善要望については、対応可能な取り組みを順次行っており、来館者の満足度はいずれの館も満足が8割を超えていて評価できる。収蔵作品や企画展などの発信力を高める取り組みが求められる。
事故・苦情	B	特段の事故や苦情は発生していません。引き続き事故の未然防止に努め、事故発生の場合は、被害者の立場に立った適切な措置を行います。また、苦情についてもスタッフ一同接客対応に際し、情報の共有化を図るため発生事案について利用者からの苦情の内容等を書面にて報告するよう周知徹底しました。	B	特段の事故や苦情は発生していない。今後も適切な管理運営や、利用者の立場に立ったの設備点検等を行うことにより、未然の防止に努めていただきたい。
指定管理者の経営状態			指定管理者として問題なく経営が行われている。	

## 総合コメント(市)

指定管理者は、当該施設の設置目的を理解し、関係法令や協定書、仕様書に従って適正に管理運営を行い、市内陸地部の文化施設として文化芸術の振興、文化財の保存活用に努めている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対する意識の変化により徐々に外出をする人も増え、市内観光文化施設においてはコロナ以前の状況に戻る兆しが見えてきている。特に今治城においては過去最高の入館者数となり、過去2年間に於いて入館料収入が減り控えていた修繕や備品の購入ができるようになったことにより、利用者へのサービス向上に繋がった。

引き続き利用者ニーズの把握・分析を進め、新しい生活様式に対応した魅力的な事業の実施や、効果的な宣伝広報のほか、新たな連携先の拡充などにより、更なる利用促進を図り、施設の活性化や市の文化振興推進策への貢献を期待する。